

令和5年第5回袖ヶ浦市議会定例会における所信表明

本日ここに令和5年第5回袖ヶ浦市議会定例会の開会にあたり、私の市政運営に関する所信の一端を申し述べ、議員の皆様並びに市民の皆様のご理解とご協力、ご支援を賜りたいと存じます。

初めに、議員各位におかれましては、本市の発展や市民生活及び福祉の向上につきまして、日々ご尽力いただいておりますことに、心から敬意を表するものでございます。

私は、この度の市長選挙において再選を果たし、引き続き市政運営という重責を担わせていただくこととなりました。まずもちまして、すべての皆様に心から感謝を申し上げます。

今回の選挙は、20年ぶりの無投票という形で終えましたが、これにつきましては、市民の皆様からの1期4年間に対する評価と、2期目となる今後4年間へのご期待であると受け止め、声なき声に耳を傾け、より謙虚に皆様とともにまちづくりを進めてまいる所存であります。

これからの私自身の責務を考えると、改めて身の引き締まる思いであります。本市の将来の発展に向け、誠心誠意、全力で職責を全うする所存でありますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

さて、1期目を顧みますと、甚大な被害をもたらしました令和元年房総半島台風による被災対応をはじめ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する防止対策やワクチン接種への体制確保、急速な物価高騰への対応など、これまでに経験したことのない様々な課題に対し、市民の皆様のご生命や財産、日々の暮らしを守るため、どのような施策を講じていくべきか、即断即決をし、瞬く間に駆け抜けてきた日々であったように感じております。

このような状況もあり、市民の皆様と顔をあわせて意見を交換する場や交流する機会があまり持てない時期が続きましたが、コロナ禍という経験を踏まえ、子どもたちが将来に渡って夢や希望を持ち、本市への愛着と誇

りをもって住み続けたい、そう思えるような、次のまちづくりへ前進するときであると考えております。

本市が目指す将来の姿である「みんなでつくる 人つどい 緑かがやく 安心のまち 袖ヶ浦」の実現に向け、まちづくりの主役である市民の皆様とともに次の世代に誇れる、より豊かな袖ヶ浦を築き上げるため、まちづくりの更なる挑戦に全身全霊で取り組む決意でありますことをここに表明いたします。

それでは、私の掲げる市政運営にあたっての6つの基本政策について申し上げます。

1点目は、『アクアラインを活かした新しいまちづくり』であります。

本市は、東京湾アクアラインの開通により、東京駅や羽田空港をはじめとする都心の主要な交通拠点とのアクセスが一段と容易になり、この地理的特性を活かしたまちづくりは、本市の魅力を象徴づけるものとなっております。

今後もアクアラインを活用したまちづくりへの取組をさらに前進させ、新しい変化を実感していただくことで、本市の新たな魅力や活気を生み出していくことができると期待しております。

特に、袖ヶ浦駅海側地区から木更津市金田地区にかけての地域は、住宅地だけではなく産業基盤としても活用できる高いポテンシャルを秘めており、本市のまちづくりの大きな推進力となっていくことを感じております。

さらに、市内には館山自動車道や圏央道などの高速道路が整備されており、袖ヶ浦インターチェンジ周辺は首都圏との良好なアクセスポイントとして、多くの人々の動線上にあることから、今後さらなるまちづくりに貢献できる拠点として利活用を検討してまいります。

また、市街化調整区域につきましては、各種規制により土地の利活用が制限されておりますが、地区計画の制度を活用することで、内陸部におけるまちづくりを創造できることから、制度の周知を図り、地域の皆様とともにまちづくりを推進してまいります。

あわせて、長期間行われてこなかった市街化区域と市街化調整区域の面的見直しや、それと並行した真に守るべき農業振興地域の再検討など、それぞれの地域が有機的に作用し合い、活性化するよう、国や県も含めた関係機関との調整を行ってまいります。

2点目は、『未来を担う子どもたちのためのまちづくり』であります。

子育て施策につきましては、総合計画においても重要な施策として位置付けております。これまで本市で生まれ育った皆様や、本市を選び、移り住んでいただいた皆様のご期待に応えられるよう、保育施設や放課後児童クラブの整備、小学校の校舎増築をはじめ、子ども医療費や学校給食費の助成といった経済的負担の軽減など、様々な取組を行ってまいりました。

今後も、保護者の方が安心して子育てしていただけるよう、地域とのつながりを感じ、子どもたちが楽しく自由に過ごすことのできる居場所づくりや、心豊かに健やかに成長することのできる教育環境のさらなる充実に取り組んでまいります。

本年6月に宣言いたしました「こどもまんなか応援サポーター宣言」にもありますとおり、なによりも子どもたちの目線に立ち、子どもたち自身が袖ヶ浦で育ってよかった、袖ヶ浦で学べてよかったと明日に夢を持ち、未来に向かって明るく笑顔で生活し、袖ヶ浦をふるさとと思えるまちづくりを推進してまいります。

3点目は、『持続可能なまちづくり』であります。

現在、我が国全体の人口は減少期を迎えており、今後は、本市も例外とは言えません。これからは、これまで以上に本市の人口をどう維持していくべきか、将来を見据えたまちづくりを行わなければ次世代へつなげることはできません。

だれもが住み続けたいと思えるまちづくり、そのための施策を展開していく必要があります。

近年、激甚化する様々な災害から市民の皆様の命と財産を守り、安心して住み続けることができるよう、災害に強いまちづくりに引き続き取り組

んでまいります。

また、災害時には避難所としても使用する市民会館や公民館につきましては、これまで生涯学習の場として、教育、学術、文化など多様な教室や講座などが開かれ、地域の人々に親しまれ、利用されてまいりました。今後は、生涯学習に加え、さらに地域コミュニティの中心として、市民同士の交流や絆を深めることのできる、地域のまちづくりの拠点としていきたいと考えております。

その他の公共施設につきましても、地域コミュニティでは重要な拠点であり、地域の活性化を促す役割も果たさなければなりません。このため、単なる施設の老朽化対策だけではなく、新たに人々が集まる賑わいの場を創出できるよう、臨海スポーツセンターや百目木公園などの施設につきましては、その機能の拡充や再整備等を検討してまいります。

また、すでに所期の目的を果たした公共施設等につきましても、有効な利活用をできる限り早期に方向性を見出すよう検討を進めてまいります。

4点目は、『だれにでも優しいまちづくり』であります。

幅広い年代層が利用できる移動手段として、現在、長浦地区で実証運行しているデマンド型乗合送迎サービス「チョイソコがうら」につきましても、今後は市内全域へ拡大するとともに、先進的な取組であります、自動運転やライドシェアにつきましても調査、検討を進め、車が無くても生活できるまちの実現に向け、取り組んでまいります。

また、性的マイノリティに対する多様性を認め、共生社会の実現に向けたパートナーシップ・ファミリーシップ制度の導入や、様々な年代層で、より多様化、複雑化が顕著となっている福祉的な課題解決に向けた総合的な支援、相談体制の整備など、市民に寄り添い、だれもが暮らしやすいまちづくりに努めてまいります。

5点目は『産業が発展するまちづくり』であります。

本市は、税収に恵まれているとよく言われますが、令和4年度決算の財政力指数は1.09であり、決して余裕のある財政状況ではございません。

様々な施策を展開し、今後のまちづくりを進めるためには、地域経済の活性化が不可欠な要素となります。

台風被害やコロナ禍が落ち着きを見せているものの、ロシアによるウクライナ侵攻等による世界経済への影響や、物価高騰に伴う消費動向や国内景気への影響など、いまだ不透明な状況にあり、社会情勢の変化や取り巻く環境への影響を注視していく必要があります。

今後も現場からの声を活かしながら、市内中小企業や農畜産業の積極的支援、また、次の世代につなげる地元企業の育成など、産業振興にも力を入れてまいりたいと考えております。

6点目は、『まちづくりを支える市役所』であります。

これまで「書かない窓口」の導入や、時間や場所を選ばない、電子申請サービスの拡充といった行政サービスのデジタル化を進め、市民の皆様の利便性向上だけではなく、行政サービスの質や業務効率の向上につなげてまいりました。

引き続き、地域や教育、行政などの、生活により近いところでのデジタルトランスフォーメーションの取組を推進してまいります。

また、ホームページやSNSを活用することで、従来から行っている広報紙や説明会などに加え、より早く、より多くの情報を発信するようになり、これと同時に皆様からの意見を集めることも容易な環境となりました。

こうした多様なツールを通じて、子どもからお年寄りまであらゆる世代からの声を拾い上げ、その成果を市民の皆様へフィードバックしていきたいと考えております。

未来の袖ヶ浦市のため、市民の皆様と職員が意見交換し、相互に協力することで実効性のあるまちづくりを促進してまいりますとともに、職員一丸となり様々な課題と立ち向かい、市民の皆様にご信頼していただける市役所となるよう努めてまいります。

以上、市政運営に関する所信の一端を申し上げますが、具体的な施策内容等につきましては、来る令和6年2月議会定例会の施政方針におきま

して、改めてお示ししてまいりたいと存じます。

現在、我が国は、少子高齢化と急速な人口減少により社会構造が大きく変化しており、不安定な国際秩序は経済リスクとして市民生活や企業活動にも影響を与えております。

また、地球温暖化をはじめとする気候変動は環境に影響を与え、食糧問題や大規模災害リスクの増大へとつながっており、今後は従来の大量消費型社会から、資源をより効率的に、持続可能な形で循環させながら利用する、循環型社会への変化が求められています。

先行きが不透明で、大きな転換期を迎えている今、わたしたちのふるさと袖ヶ浦にあっても、新しい時代の変革をしっかりと捉え、次の時代に誇れる、より豊かな袖ヶ浦市へとつないでいかなければなりません。これからも新たな挑戦を続け、忍耐強く、歩みを進めてまいる覚悟であります。

市民の皆様、議員各位におかれましては、格別のご協力、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます、市長就任にあたっての所信表明並びにあいさつといたします。